

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】 / (分野)		授業形式						
E112F005		日本史概説 (General Statement of Japanese History)							対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態							
必修	2	3	教育学部	前期	木4	日本語		単独							
担当教員	氏名 八木 直樹 E-mail n-yagi@oita-u.ac.jp 内線 7976														
授業の概要	原始・古代・中世・近世・近代・現代と各時代の特色を踏まえながら、日本の歴史の大きな流れを講義します。本授業の目標は、中学校社会科の授業に必要な日本史に関する基本的な知識を習得・理解することです。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	
目標1	日本史の基本的な知識を習得し、それぞれの時代の特色について説明することができる。								○	○					
目標2	教科書に記載された事件・人物・用語を説明することができる。								○	○					
目標3	時代の転換にかかわる歴史的事象について、その事象の意義や事象間の関連を説明することができる。								○	○					
目標4															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度 (計10)									5	5					
授業の内容															
1	日本の成り立ちと邪馬台国														
2	古代国家の形成とヤマト政権														
3	律令国家の形成と平城京														
4	平安京と貴族の政治														
5	武家政権の成立と鎌倉幕府														
6	武家政権の展開と元寇														
7	南北朝の動乱と室町幕府														
8	戦国の動乱と信長・秀吉の統一事業														
9	江戸幕府の成立と幕府支配の展開														
10	鎖国下の対外関係と江戸文化の発展														
11	幕府政治の行き詰まりと開国														
12	明治維新と文明開化														
13	立憲制国家の成立と日清・日露戦争														
14	第一次世界大戦と国際情勢														
15	第二次世界大戦と戦後の日本														
ラーニング	A:知識の定着・確認	○	それまでの授業を振り返り、各回の授業内容についてまとめる小テストを実施します。				工夫その他の	なし。							
	B:意見の表現・交換														
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造														
授業時間外学修と想定時間	準備学修	教科書の該当箇所を予習しておくこと (20h)。													
	事後学修	講義資料と教科書を通して講義内容を復習すること (25h)。													
	想定時間合計	45													
教科書	教科書は指定しません。毎回プリントを配布します。														
参考書	矢ヶ崎典隆ほか『新しい社会 歴史』(東京書籍、2023年、ISBN9784487123322)。 文部科学省『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編』(東洋館出版社、2018年、ISBN9784491034713)。														

成績評価の方法及び評価割合	評価方法		割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	試験		90%	○	○	○							
	小テスト		10%	○	○								
注意事項		なし。											
備考		なし。											
リンク													
		URL											